

今月の谷口雅春先生のお言葉

# 善い言葉と優しい笑顔で、 明るい家庭を築きましょう

言葉は子供の心の底に強く印象する

今までの教育家のやっておられる教育法をみますと、  
たいていは人間のわるいところを見つけまして、それを  
「ここがわるいから直せ」というふうなことを常に言っ  
てきたのであります。そうして「お前はできがわるいからよく勉強せよ」  
こういうような調子で教えてきたのであります。そうするとその子供はどういうふうになつて  
ゆくかといえますと、「お前ができがわるいから」とこ  
う言われると、言葉の力によりまして、「自分はできが

わるい」ということを強く強く心の底に印象させられる  
のであります。そうして「できがわるいからやれ、やれ」  
と言われますと、「わたしはできがわるいのだ、やらな  
くちゃならない」と思ひましても、心の底に、「自分は  
成績がわるいのである、頭がわるいのである、よくでき  
ないのである」という強い信念がその子供の潜在意識に  
強く印象しておりますから、勉強しようと思つても勉強  
に興味が起こらないのであります。それをいやいや「で  
きなideきない」と思ひながら勉強しましても、本当に  
その勉強が心に這入らない、そのため、いくら勉強して  
も、その効果があがらないということになるのでありま

す。これが言葉の力であります。

『生命の實相』頭注版第30巻6〜7頁

心やコトバで善い種を蒔くには

われわれは、コトバの種や想いの種を蒔くのです。それは、眼に見えぬ小さい種ですが、それが段々生長して、眼に見える形にまであらわれて来るのです。神さまがあなたに、悪いものをお与えになるではありません。あなたの心の花園にあなた自身が蒔いた通りの種類のものがあらわれて来るのであります。

自然は雑草も生やしますが、美しい草花も生やしますし、お米やお麦も生やすのです。出鱈目にほっておいたら雑草の方がよけいに生えるでしょう。だから吾々の心の「思い」も何の気なしにほって置いたり、出まかせのことを思ったり喋ったりしているのでは、つまらないことばかり生えてくるでしょう。だから、言葉に出すことや、

心に思うことは出来るだけ善いことばかりを思うようにしなければなりません。善いことばかりを思うことです。

(中略) 今、悪いことがあっても「私は神の子なるがゆえに、善いことが来る、善いことが来る」と云っていると善いことが出て来るのです。(新装新版『真理』第1巻142〜143頁)

ニコニコえびす顔

いつもニコニコしていなさい。ニコニコの心とニコニコのえびす顔に、よい事が集って来るのです。ふくれっ面には、決して良い事は集って来ません。この世の中は、類をもつて集るといふ事になっているのです。蟻は蟻づれで蟻ばかり集っています。鼠は鼠づれで、鼠同士で駆けくらしています。蠅は蠅づれで腐いものに集ります。蠅はきたないですな。きたないものには、きたないものが集って来るのです。くさったものに蠅がたかるのはそのためです。あなたも気をくさらせたりして、ふく

れつ面つらをしていますとよいものは集って来ません。ニコニコえびす顔をつねにしなさい。よい事ばかり集って来て、あなたは幸福になります。(新版『生活読本』219頁)

### 感謝と愛語あいごと和顔わがんの中に調和ある家庭が生まれる

息子や娘を善くしてやりたい愛の心だといって、始終じゅうじゅう大きな声で口穢くちぎたなく罵ののることは失敗である。それはたとい愛の心があつても、鬼おにの面を被かぶつた愛の心である。鬼の面を被つている以上は、愛でも相手を恐れさすほかに能力がないのである。汝なんじの鬼の面をとれよ。そして本物の愛の顔を出いださせよ。相手は懐なついて、愛に感じて、喜んで善うづに遷うつってくれるのである。

たえず小言こことを言い、絶えず怒いかりを振り撒まいて歩き、間断なく人の欠点をさがしつつ、その人を善き人にしてやろうと思うのは、「不調和」から「調和」が生れ出て来るだろうと予想するのと同様な迷信である。たとい、こ

の世の中に飄ひょうたん箏こまから駒こまが生れ出ようともし、「不調和」から「調和」が生れて来ることは難しいのである。諸君がもし諸君の立ち対むかう人たちをば善ならしめようと欲するならば、自分自身が先ず調和した心持こころもちにならなければならぬのである。自分の心が乱れ、癩かんしゃく癩やくに触つて相手を鋭すまじい言葉で刺さし貫つらぬいているようなことで、相手を善よに化かし得うるなどと偉いそうなことを考えぬが好よいのである。

家庭の中でブツブツ小言を言うものは、ただその家庭に黒雲を投げ込んで、明るい光線を押し消し、澄すんだ生々いきいきした空気を、濁にごつた泥水どろみずのような空気にしてしまふほかに何の能のうもないのである。(中略)

心は必ず形にあらわれる。諸君の向むかうところに常に感謝の心と愛の言葉と、にこやかな表情とを投げかけよ。類るいは類を招よび周囲を生かす者は自分も生きるのである。感謝と愛語あいごと和顔わがんの中にのみ調和ある空気は生れ、調和ある空気の中にのみ生長と発達とがあるのである。

(新編『生命の實相』第13巻168〜172頁)